科目名	成人看護学方法論Ⅲ	対象学年・時期	2年　前期
講師	非常勤講師・専任教員	単位数・時間数	1単位・30時間
講義概要	デュプロマポリシー3に基づく。 　解剖生理学では、人体の様々な組織や細胞・臓器について、それらが正常に機能することで人間の生命を維持していることを学んだ。病態学では、人体の様々な機能が破綻した状態について学び、病態・検査・治療に関する知識と結びつけ身につけた。 　この科目では、解剖生理学と病態学の知識を基盤とし、成人看護学概論で学んだ成人期にある対象の特徴をふまえ、対象が各種の健康障害から回復していく、障害を持ちながらも生活を再構築していく過程を支援するための知識と技術について学ぶ。健康障害を抱えた対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、対象の置かれた状態を観察し判断するための知識、回復に向けた支援を対象に合わせて実践するための知識を身につける。 　ここでは、脳・神経機能障害、血液・造血器機能障害、免疫機能障害、咀嚼・嚥下機能障害、皮膚疾患のある対象への看護について学習する。		
講義形態	講義・演習		
学習目標	1. 脳・神経機能障害のある対象の看護を理解する。 2. 血液・造血器機能障害のある対象への看護を理解する。 3. 免疫機能障害のある対象への看護を理解する。 4. 咀嚼・嚥下障害のある対象への看護を理解する。 5. 皮膚疾患のある対象への看護を理解する。		
学習内容 (授業計画)	＜脳神経＞ 1回目　脳・神経機能障害のある患者の観察とアセスメント 　　検査・処置を受ける患者の看護 　　脳波検査、髄液検査、脳血管造影 2回目　脳腫瘍患者の看護 3回目　手術を受ける患者の看護 　　開頭術、尖頭術、血管バイパス術 4回目　若年性認知症患者の看護 ＜摂食・嚥下看護＞ 1回目　摂食・嚥下機能障害のある患者のアセスメント 2回目　摂食・嚥下機能訓練 ＜血液・造血器＞ 1回目　血液・造血器の機能障害を持つ患者のアセスメント 　　検査・処置を受ける患者の看護（骨髄穿刺） 2回目　白血病患者の看護 3回目　造血幹細胞移植を受ける患者の看護 ＜感染症・免疫・アレルギー＞ 1回目　免疫機能障害のある患者のアセスメント 　　アレルギー性疾患患者の看護（薬物療法、減感作療法） 2回目　自己免疫疾患患者の看護（全身性エリテマトーデス、多発性筋炎、皮膚筋炎） ＜歯・口腔＞ 1回目　咀嚼・嚥下障害を持つ患者の看護　　事前学習：口腔・嚥下の解剖生理 ＜皮膚＞ 1回目　熱傷、褥瘡患者の看護 2回目　褥瘡の予防と創処置の実際		
使用テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学⑦脳神経、⑪アレルギー・膠原病・感染症、 ⑮歯・口腔、⑫皮膚		
事前学習・ 事後学習 (学習を促進できる学修)	適宜、指示します。		
評価基準と 評価方法	筆記試験 ※歯・口腔を除く		
備考	解剖生理学、病態学を復習した上で授業に臨みましょう。		